



梅雨入り後は、病害の感染拡大に好適な高温・多湿状態が続いています。梅雨最盛期の薬剤散布が遅れると、輪紋病・炭そ病等主要病害の果実感染が拡大します。梅雨明けまでは散布間隔を一定に保ち、予防散布を徹底してください。また、梅雨明け直後はハダニ類の密度が一気に高まります。密度が低いこの時期から防除を徹底してください。尚、7月上旬の薬剤散布の詳細は下記の内容を参考に進めてください。

りんご

7月上旬の薬剤散布（前回より15日後）

散布時期：7月1日～5日 *注意事項①参照

散布薬剤：水	100	リットル	
展着剤	10	ml	
コロマイト乳剤	100	ml	（前日、1回） *注意事項②参照
劇 バイスロイドEW	50	ml	（7日前、4回） *注意事項③参照
ナリアWDG	50	g	（前日、3回） *注意事項④参照
スイカル	100	g	

◆ 散布日：7月 日

◆ 散布量 リットル

散布量：10a 当り 600 リットル

対象病害虫：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病

ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ

◆ 注意事項及び果実腐敗病対策 *必ずお読みください。

- ① 前回散布後から曇天・雨が続けている場合は、上記の散布目安日より前倒しで行うこと。また、毎年、褐斑病の発生が多い園地は、トップジンM水和剤1500倍（前日、6回）を加用散布する。
- ② 殺ダニ剤の効果を高めるために、徒長枝切りや下草除草を薬剤散布予定の3～4日前に実施する。
- ③ バイスロイドEWは劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参してください。
- ④ ナリアWDGは、ピオーネ・サニールージュ等に薬害を生じる恐れがあるので飛散しないようにする。
- ⑤ カルシウム剤「スイカル」の1000倍は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので、必要により加用する。スイカルに代えて、ストピットIIの500倍を使用してもよい。
- ⑥ 輪紋病・炭疽病の発生が心配される場合は、ICボルドー412の33倍を6月末～7月初旬に特別散布する。ただし、つがる等の早生種にはボルドー液は散布しない。（詳しくは担当技術員までお問い合わせください。）

◆ りんご7月中旬の特別散布及び次回薬剤散布情報は裏面をご覧ください。

梅雨後半は、輪紋病・炭疽病・褐斑病の最重要防除期間です。集中豪雨等で病害の感染が一気に拡大する恐れがありますので、ここ数年輪紋病・炭疽病・褐斑病が多発した園では、今回の特別散布を実施し、病害の予防に努めてください。また、7月に入り、ハダニ類の発生が見られる場合は、殺ダニ剤の繰り上げ散布を併せて実施してください。

りんご

7月中旬の特別散布

◆ 散布日 月 日

◆ 散布量 リットル

◆ 散布時期：7月8日～12日 *注意事項①参照

◆ 散布薬剤：水 100^{リットル}

展着剤 10ml *注意事項②参照

オーソサイド水和剤80 125g (14日前、6回) *注意事項③参照

◆ 散布量：10a当り 600^{リットル}

◆ 対象病害虫：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病、(ハダニ類)

◆ 注意事項 *必ずお読みください。

- ① 輪紋病・炭疽病・褐斑病対策の特別散布です。前回から7～10日後を目安に散布する。
- ② 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、固着性展着剤のアピオンEの1000倍（100^{リットル}に100ml）を使用すると薬液付着効果が高まる。
- ③ オーソサイド水和剤80に代えて、オキシラン水和剤500倍（14日前、4回）でもよい。
- ④ 薬液が園全体にタツプリかかるように散布し、死角がないように注意する。過繁茂状態の園では、徒長枝切り等の管理を散布前に実施すること。
- ⑤ ハダニ類の発生が多い場合は、7月中下旬（第9回）散布予定のダニサラバフロアブル1,000倍（前日、2回）を繰り上げて今回の薬剤散布に加用してもよい。

◆ 次回の定期薬剤散布は、7/15～20頃の予定です。

ハダニ類やシンクイムシ類の重要防除期となります。梅雨明け直後に確実に散布するように予め計画してください。

農作業中の事故にご注意ください！

- ① ハシゴは、チェーンやひも等でしっかりと止め、開かないように使用してください。
- ② ハシゴの最上段に上って作業は行わないようにする。
- ③ 梅雨期間は、地盤が緩みます。傾斜地でのハシゴやSSの走行等に十分注意してください。